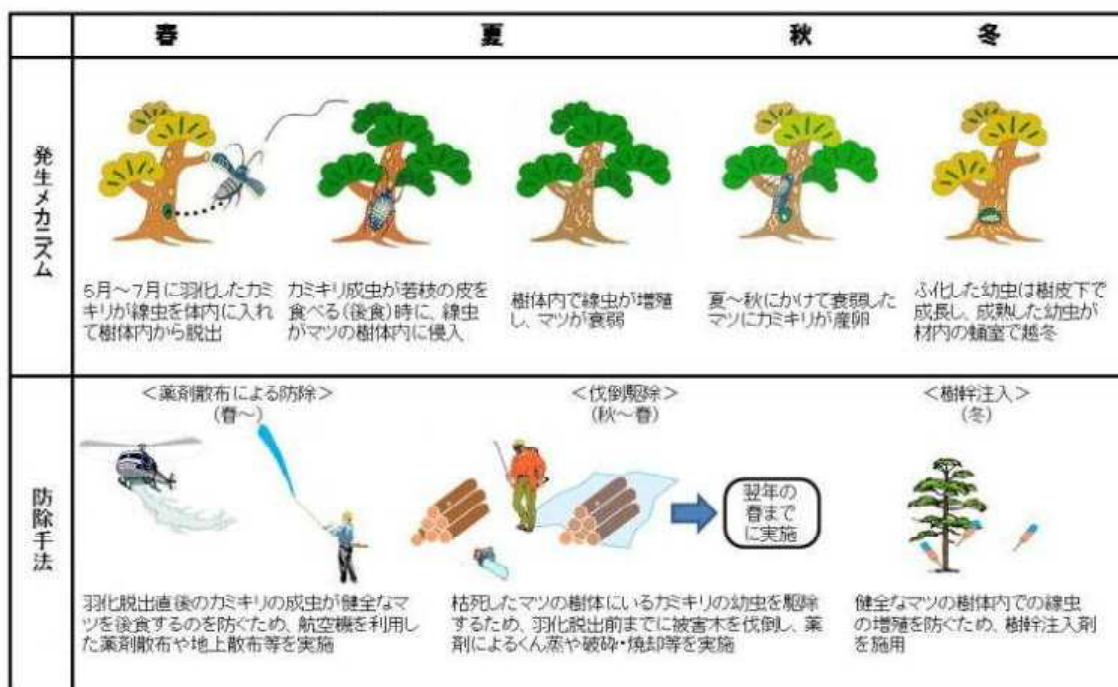


## 2. 松くい虫被害発生メカニズムと防除手法



注1)発生メカニズムについて、被害の発生時期などは地域の気候等によって異なるため、おおよその季節を記載している。  
注2)「カミキリ」とは「マツノマダラカミキリ」を、「線虫」とは「マツノザイセンチュウ」のことをそれぞれ指す。

図：林野庁HPより

### (1) 「松くい虫」とは

「松くい虫」という名の虫は存在しません。松くい虫被害の正式名称は「マツ材線虫病」です。マツを枯れさせる直接の病原体は、マツノザイセンチュウと呼ばれる長さ1mm程度の線虫ですが、これを伝搬する運び屋（媒介昆虫）がマツノマダラカミキリです。これらの共同作業によって松くい虫被害が発生、まん延します。

### (2) マツノザイセンチュウとは

体長が0.6～1.0mmの線虫です。アメリカから輸入された木材とともに長崎県に上陸したものと考えられており、「日本の侵略的外来種ワースト100」（日本生態学会）にも選定されています。マツノマダラカミキリによってマツ生立木に運ばれます。

### (3) マツノマダラカミキリとは

成虫の体長が20～30mmとなるカミキリムシです。日本の在来種ですが、マツノザイセンチュウと結びつき、その媒介昆虫となりました。マツを転々と移動して若枝の樹皮を摂食し、多くの健全なマツにセンチュウを運び衰弱させることで、自身の産卵対象とします。

### (4) 松くい虫被害を受けたマツについて

マツノザイセンチュウが樹体内に侵入したマツは、約一週間で樹脂（ヤニ）の流動

が止まり、水分の蒸散をしなくなります。その後に葉の変色がおこり、衰弱して枯死します。

**(5) 松くい虫被害地域について**

松くい虫被害は、西日本から徐々に北上してきたもので、現在では北海道を除く46都府県で被害が報告されています。東北地方の日本海側では青森県津軽西海岸まで、太平洋側では岩手県北部まで達しています。